

研究機関：広島大学

|   |
|---|
| 研究課題名：食道がん手術における術後上室性不整脈の発症関連因子の検討  |
| 研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科 麻酔蘇生学 教授 堤 保夫   |
| 研究期間 2020年7月22日 倫理委員会承認後 ～ 2025年3月31日   |
| 対象者<br>2014年7月1日から2020年5月31日の間に、広島大学病院で行われた予定食道がん手術のうち、術後に外科系集中治療室に入室した患者さん。  |
| <p>開胸手術の術後は、不整脈が高頻度に発症します。不整脈が発症すると早期リハビリテーションが妨げられ、術後の合併症が起こりやすくなったり死亡率が上昇したりします。食道がんの手術後も同様であり、不整脈の発症率は12.5～33%といわれています。今回、食道がん手術後に不整脈を発症する症例と発症しない症例を比較することで、不整脈発症に関係する因子があるかどうかを検討します。また、不整脈発症の際に投与する抗不整脈薬が有効かどうかや予防的に投与することで有用性があるか等を検証し、今後の対策につなげていきたいと思っています。</p> <p>方法<br/>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。<br/>カルテから使用する内容は年齢、性別、身長、体重、ASA分類、術前合併症、血液検査、病</p> |